

生産性改善 / 付加価値生産性改善

物的生産性（見掛け）から付加価値生産性（真）へ！
生産量が増加しなくても生産性は向上しなければならない！

あどばる経営研究所

本研修の特徴

- 1 付加価値生産性の追究で真の利益改善が期待できる！**
- 2 現場作業レベルで生産性改善が実現する！**
- 3 実践的な改善手法でスピーディに生産性改善が実現する！**

生産性改善手法には物理的な生産性改善を求めるものがあるが、生産効率が上がっても生産する物量がなければ、見かけ上の改善で、利益増の期待はできない。

本研修の手法によると生産物量が低減していても付加価値生産性は向上することを前提にしている。即ち真の生産性改善を追究することとなる。

売上げ低迷、成熟マーケットの過当競争時代の生産性手法は付加価値を追究するものでなければならない。

生産性が発生するのは生産現場である。生産に従事する人に、いつも生産性を追究する姿勢があれば現場はどんどん改善されていく。

生産現場の人に生産性改善手法が身に付けば効果は絶大となる。

もちろん生産スタッフ、管理者も現場の目で生産性改善行動がとれば、現実的で実現可能性の高い生産性改善成果が計られるはずである。

問題を顕在化することが、それらに直面して対応が計られることとなり、リアクションスピードは高まる。本研修では実際の問題を現場処理することを通じて、実践的に対応することを基本にしている。

座学と現場実践改善の組み合わせの中で進めていきます。

研修内容

6時間 / 回 × 6回

オリエンテーション	付加価値生産性手法の基本	ムダを科学する	サイクルタイムとECRS改善	工程改善手法 / 工程連結と分割	改善を持続させる手法・ツール	EMST手法
研修のねらい、スケジュール、心構えなどについて注意し、価値観を共有します。	付加価値生産性 / VAPS手法の基本的理解のための基本研修を行います。管理・改善の進め方についての基本研修を行います。周辺、参考技術としてQCの基礎研修を行います。	改善を行うとき、その基本的精神としてのIE技術を知っていなければなりません。方法技術と測定技術に分類して研修を行います。改善の原点はムダの排除にあります。ムダを発見してムダを付加価値に置換する方法を習得します。	サイクルタイムを基準に全ての工程、ワークセンターが同期化生産することにより、JIT生産が可能となります。改善の原点であるムダの排除はECRS手法にも反映されます。ECRS改善手法を習得して頂きます。	少人化、セル生産システムの基本は、サイクルタイムに併せて要素作業を分割したり連結したりすることにあります。これらの手法を習得して頂きます。現場実践又は演習で改善スキルを高めて頂きます。	生産の平準化と標準化手法を習得します。問題を顕在化させ直感的に管理するための手法として「目で見る管理」を習得します。改善が進展していることを把握するために管理項目・評価尺度の設定は重要となります。これらの手法を習得します。	改善作業は人が行うため「気持ちよく」「いきいきと」行われることが重要になります。改善を支えるための手法 / EMST手法を習得します。

改善活動の展開手順

1 生産性改善の考え方の基本的理解

真の生産性改善としての付加価値生産性改善の本質的理解をVAPS手法により行う。

VAPS: Value Added Production System

2 生産性改善手法の習得

VAPS、IE、ECRS、ムダを科学する手法、工程連結などの生産性改善手法を習得する。

3 生産性改善手法の現場への展開

習得した生産性改善手法を、各々の現場の改善テーマを設定し、実践する。実際の問題に当てはめて又はケーススタディによる演習を疑似体験することにより、改善スキルを高めていかなければならない。

4 実践研究会による自主改善活動

本研修を習得した人が「核」となり、改善活動をあらゆる職場で実践し、実践研究会としての検討会が実施され、これらが発展的に自主改善活動に展開することが理想である。

5 経営改善活動として全社運動へ

付加価値生産性の追究は、利益追求でもあり経営の問題である。また、付加価値生産性改善の考え方は職種、業態に関係なく実践できるため、事務部門も含めた全社運動が可能となる。

* 本研修では手順1~3を対象として行う。